

玉名高等学校(全日制) 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標
(1)【た】高い志と誠実さを持ち、世のため人のために貢献できる資質・能力を育成する。 (2)【ま】真面目さとチャレンジ精神を持ち、問題や課題に立ち向かう資質・能力を育成する。 (3)【な】仲間とともに切磋琢磨し、豊かな知性と感性を磨き続ける資質・能力を育成する。

2 本年度の重点目標				
(1)教育スローガン:「健康・礼儀・努力」～何事にも一生懸命頑張る玉高生～ 「健康」: 健やかな体、豊かな心(読書)、確かな学力 「礼儀」: 礼に始まり礼に終わる(校門一礼)、挨拶、時間厳守、掃除、感謝 「努力」: 努力に勝る天才なし 目標達成、感動、笑顔 (2)教育活動取組のテーマ:「夢実現: 未来への挑戦」～知性と感性を備えた若駒たれ～ 【至誠】ものごとを「肯定」的に捉え、よりよい世界のあり方を「想像」しながらその実現に向けて「貢献」しようとする「誠実さ」を備えさせる取組を行う。 【剛健】「挑戦」することをおそれず、試行錯誤しながら取組を「持続」し、限界「突破」に向けて最後までやり抜こうとする「たくましさ」を備えさせる取組を行う。 【進取】ものごとの本質を「探究」するために、他者と「協働」しながら課題に取り組み、新たな解決策を「創造」しようとする「先取性」を備えさせる取組を行う。 (3)玉名高校生に身につけさせたい「9つの資質・能力」				
	校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)
資質・能力				
知識・技能		① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力
思考力・判断力・表現力等		④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力
学びに向かう力、人間性等		⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態を目指す。	①ICTの活用等による業務の効率化を進める。 ②時間外勤務の状況等を衛生委員会の機能を強化しつつ検証し、業務改善や業務分担を進める。	A	【成果】各種会議資料をデータで共有し、ペーパーレス、資料印刷時間削減につなげた。全職員の時間外勤務時間の月平均は、法令で定められた上限の範囲を下回った。 【課題】業務改善や業務分担を完結するに至らなかった。部活動による長時間勤務の実態が課題として残った。
	安心・安全な学校づくりの推進	安全点検の実施と改善	各学期に1回、教室や施設等の安全点検を実施し、点検率100%の状態を目指す。	①学校安全担当が立案し全職員で取り組む。 ②担任、教科担当者を中心に、生徒の安全意識を高める取組を進める。	A	【成果】学期に1回の安全点検を確実に実施し、早急な修理・改善などの対応を施した。 【課題】次年度以降の大規模改修工事に備えて、生徒の安全確保対策について検討する必要がある。

学力向上	確かな学力の養成と授業の充実	新しい学力観に沿った授業力の向上	教科横断的な授業が、効果的に実践された状態を目指す。	①単元配列表の見直し(高1)と、新規作成(高2)を行う。 ②教科主任会および教育課程検討委員会を活用して、学習効果の検証を行う。	A	【成果】単元配置を調整し、より使いやすい形に整理できた。また、今後の社会の需要に合致するスキルや知識を身に付けさせることができる教育課程について、広く意見を募ることができた。 【課題】教科横断的な授業の取組が一部教科・科目に限定されている。
	個に応じた学習指導	習熟度別授業の工夫	学力に応じた効果的な授業が展開され、全ての生徒の学力が確実に向上している状態を目指す。	①習熟度別授業を実施する教科・科目を増やし、より個々の学力に応じた授業を展開する。 ②生徒が自身の学力に応じた課題を、自ら選択できるような学習課題や支援の方法を研究する。	B	【成果】時間割の工夫などにより習熟度別授業を最大限実施できた。 【課題】生徒一人一人が身に付けるべき力を把握し、自己分析させる指導が必要である。そのうえで生徒が能動的に学習に向かう指導法の再考が求められる。
キャリア教育(進路指導)	進路志望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の充実	生徒の進路志望に合わせた学力の向上と進路目標実現を目指す。	①学年集会やLHRを活用して進路学習を進め、個人面談を通じて適切なコース選択等を促す。 ②文系・理系および特進クラスそれぞれの特性を生かした教科指導および教育活動を行う。	A	【成果】学年集会や保護者会等で進路指導部の方針を伝え、個人面談及び三者面談でその方針に沿って各担任が学習指導・進路指導を展開した。 【課題】個々の得意、不得意に応じた学習指導、個々の進路目標に応じた進路指導に更なる工夫が必要である。
	進路意識の高揚	生徒の進路意識を具体化するための指導の充実	生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な勤労観や職業観を持つとともに、大学での学びに関する理解を深め、進路意欲が高まった状態を目指す。	①進路指導部でキャリア教育講演会、インターンシップ、若駒キャリア塾(職業別講話)等を企画・実施する。 ②進路指導部で、一日若駒大学(出張講義)等を企画・実施する。 ③進路指導部で難関大学対策講座を企画・実施する。	A	【成果】本校のキャリア教育の3つの柱(キャリア教育講演会、若駒キャリア塾、一日若駒大学)において、講師選定に力を注ぎ、生徒の進路意欲の向上につながることができた。 【課題】長期休業中のインターンシップ(看護体験等)に対する生徒の更なる意識向上を図らなければならない。また、難関大学対策講座において更なる質の向上を図る必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	交通安全意識の励行	生徒が道路交通法や交通ルール、交通マナーを遵守し、無事故、無違反の状態を目指す。	①交通委員による交通安全啓発活動を行う。 ②交通安全を呼びかける集会や講習会を実施する。	B	【成果】通学手段別に適宜、交通安全に関する注意喚起を実施し、交通安全意識の向上を図ることができた。 【課題】地域の方々からの苦情や交通事故が発生しており、交通安全意識を高める取組の継続必要である。
	生徒会活動・部活動の活性化	学校行事の創意工夫と部活動の活性化	生徒の意見や思いを尊重しつつ、現状に即した適切かつ主	①月2回程度生徒会スタッフ間で現状報告と情報	A	【成果】月2回の生徒会執行部会を実施し、情報共有、協働活動がで

	化		体的な活動が行われる、また活動動指針に沿った部活動が計画的に実施された状態を目指す。	共有を実施する。 ②校外で生徒会が取り組む行事を企画する。 ③毎月、部活動計画を把握すると同時に、活動しやすい環境を整える。		きた。校外において途上国や犯罪被害者支援等のボランティア活動に積極的に取り組んだ。活動指針に沿った部活動が計画的に実施されていた。 【課題】より長期的な活動計画を立てて部活動に取り組みやすい環境を整備する必要がある。
人権教育の推進	推進体制の機能強化と研修の充実	基本的認識の深化および啓発の充実	職員の人権意識が高揚するとともに、生徒が平和の尊さをはじめとする普遍的な人権意識を大切にしている状態を目指す。	①研修等の機会を多様な方法で設ける。 ②人権教育推進委員会を通じて生徒・職員に必要な発信を行う。 ③保護者会等での保護者への啓発を図る。	A	【成果】研修等の機会を校内のみならず校外でも多数開催できた。必要な発信も人権教育推進委員会を中心に効果的にできた。 【課題】保護者会等での能動型・参加型の研修が不十分であった。
	命を大切にすることを育む指導	授業の充実	特設授業の充実と、人権教育の視点を備えた各教科の授業が実践された状態を目指す。	①特設授業について教材の更新を行う。 ②生徒への配慮事項等について、職員間で共通理解を図る。 ③人権教育推進委員会を中心に全教科領域で取り組む。	B	【成果】生徒への配慮事項等について、部会・学年会・教科会等で共通理解を図ったうえで授業を実践することができた。 【課題】最新の人権課題について職員間で認識の差があり、全教科領域での取組には至らなかった。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見・迅速かつ適切な対応	生徒・職員の意識の高揚	いじめ防止基本方針等の理解促進と、心のきずなを深める月間をはじめ、年間を通じた啓発活動が充実した状態を目指す。	①「心のアンケート」の年3回実施や、日頃のコミュニケーションを通じていじめの早期発見・迅速な対応に努める。 ②特別支援教育・生徒支援委員会等を活用して、職員研修の充実を図る。	A	【成果】学期1回「心のアンケート」を実施し、いじめに関する情報を収集・共有すると共に、早期解決といじめ防止に向け、組織的に取り組むことが出来た。 【課題】いじめ防止基本方針等について理解を深める研修を実施するとともに、いじめの未然防止に向けた対応策について更に検討する必要がある。
	生徒理解の推進	組織的な生徒支援	関係職員の生徒情報、支援策が共有され、親身になった教育相談等が実施された状態を目指す。	①特別支援教育・生徒支援委員会、いじめ防止等対策委員会を定期的に開催する。 ②担任面談の時間を確保する。 ③SC、SSWの活用方法について周知する。	A	【成果】定期的に委員会を開き、職員間で生徒に関する情報を共有することができた。適宜SC、SSWの活用が行われた。 【課題】日常的に生徒の情報を集約して適切な支援につなげるシステムづくりについての検討が必要である。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	育友会との連携	育友会総会・学校行事での連携の充実	特に育友会と事前に話し合い、円滑な運営と連携体制が再構築された状態を目指す	①育友会だよりの作成において、広報委員会の活性化に協力を進める	A	【成果】全2号の発行に終わったが、可能な限り協力することができた。総会や体育祭などの各

			す。	。②育友会総会、体育祭、若駒祭、小岱山一周大会での協力を進める。		行事に向け十分な話し合いを行い、充実した活動に協力することができた。 【課題】育友会主催行事に対する学校の協力体制について検討する必要がある。育友会だよりの記事内容を育友会活動主体に推移させることに協力する。
	開かれた学校づくり	関係機関との連携	総合型コミュニティ・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けて、活発な議論が行われる状態を目指す。	①年間2回以上、学校運営協議会を開催し、各委員から、幅広く意見を伺い、学校運営に活かす。 ②地元自治体(玉名市)との連携を強化する。 ③上級学校(大学等)との連携を強化する。	B	【成果】玉名市との連携が進み、進学フェアへの参加や本校の探究活動への協力体制が構築された。また、若駒大学への講師派遣や熊本大学主催のワクワク連続講義への参加など連携が進んだ。 【課題】探究活動を柱とした玉名市や熊本大学等との連携を強化し、組織的に取り組めるよう更なる具体化に努める必要がある。
健康 保健 指導	健全な心身の育成	健康に関する意識の高揚と健康診断後の早期受診指導	心身の健康に関する意識を高め行動化できる状態を目指す。	①外部講師等を活用した講演会を開催する。 ②保健便りの発行等による啓発や受診を促す。	A	【成果】講演会を計画どおりに実施できた。健診後は速やかに治療勧告書を配付できた。 【課題】講演前後の指導を充実させ、効果の定着を更に高める必要がある。健診未受診者には再度治療勧告書を配付するなど、受診率や治療率が向上するような取組が必要である。
	環境教育の推進	学校版ISOの取組と環境美化活動の推進	環境週間や環境美化への取組が徹底された状態を目指す。	①学校ISOを策定し、周知する。 ②美化委員会を中心に美化チェックを活用し、環境美化に対する意識を向上させる。	A	【成果】美化委員と保健委員で役割分担しながら美化チェックを確実に実施した。学校版ISOに取り組み、環境美化活動を推進することができた。 【課題】平時の掃除を含め、環境美化に対する意識づけを更に高める工夫が必要である。
新しい 学びの 推進	言語力向上および探究的活動の充実	読書活動の推進	ICTを活用した図書館情報の配信を行い、多くの生徒が利用している状態を目指す。	①図書館蔵書検索サービスの活用を進める。「考人」および新書案内のClassroomでの配信等を行う。 ②図書館終礼、朝読書を行う。	A	【成果】「考人」および新書案内等の発行を適切に行うことができた。また、ブリタニカオンラインを導入し、授業や探究活動等で活用できた。図書館終礼、朝読書活動も中学校と連携し行うことができた。 【課題】朝読書期間中の生徒に対する指導徹底や、静寂な中で本を読

						むことができる環境整備が必要である。
		総合的な探究の時間を中心とした、学校教育活動全般における探究的活動の展開	身近な社会課題に関する探究に取り組み、課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現というプロセスを通して、主体的・協働的な態度、問題解決能力、およびプレゼンテーション能力が身についた状態を目指す。	①探究活動の基礎を学んだ後、グループ別の課題探究活動から個人による探究活動へと研究の深化を図る。 ②プレゼンテーションや論文などから優れた研究を選び、外部のコンクール等に出品する。	A	【成果】各学年ともほぼ計画通り実施することができた。今年度より玉名市役所及び熊本大学との連携講座も実施でき、外部発表会にも積極的に参加した。 【課題】各教科の授業と探究活動とのつながりが不十分であった。
	ICTを利用した学習活動の充実	「先行実践校」としてICTの先進的な活用研究の推進および新学習指導要領の円滑な実施	職員の情報活用能力が向上し、ICTを活用することで効果的に「主体的・対話的で深い学び」が実現された状態を目指す。	①定期的な職員研修を実施する。 ②デジタル採点を普及させ、得られたデータを生徒の学力向上や授業改善に活かす。 ③学習活動における「習得」の場面でのICTの積極的な活用を進める。 ④学習活動における「活用」「探究」の場면을重視した授業改善を図る。	A	【成果】職員のICT活用技術の向上が見られた。また、デジタル採点システムの活用が普及し、業務の削減や授業改善につながった。 【課題】職員間の情報活用能力の差が大きい。ICT活用に対して苦手意識を持つ職員が安心して新しい技術を活用できる環境を組織的に構築する必要がある。
中高一貫教育の推進	6年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育校としてのグランドデザインの構想	スクール・ミッションやスクール・ポリシーについて共通理解が深まり、中高の全教職員が協働して、6年間または3年間で生徒を育成する指導体制が確立された状態を目指す。	①日常的に「9つの資質・能力」ルーブリック表の活用を推進していく。 ②中高それぞれの進路検討会等への校種を超えた職員の参加を促す。	B	【成果】生徒が自身の現状を客観的に振り返る機会を得ることができ、人間としての総合的な成長につながった。職員にとっても生徒の資質や能力と直結した指導方法を明確にすることができた。 【課題】中高の学習面での連携が手薄である。附属中学校で培った知識やスキルを高校で円滑に活用できる支援体制構築が必要である。
	進路希望に応じた学力の向上	個別に最適化された学びと協働的な学びの一体的推進	生徒一人一人の学習到達状況や学習習慣の状況を全職員で共有し、学習支援に効果的に活かすことで、進路志望が実現された状態を目指す。	学力検討会を実施することで、情報共有を図り、個別最適化された学びと協働的な学びを一体的に推進するための具体策について検討する。	B	【成果】学力検討会は、生徒の多様な学習スタイルに適応し、協力を重視した教育手法を学ぶ機会となった 【課題】個別のニーズ把握が綿密にできていない。観点別評価により各生徒の能力や学習の進捗状況を評価し、適切なフィードバックを提供しなければならない。

4 学校関係者評価

- ・幅広い学力層の生徒それぞれに、とても丁寧に対応し、着実に成長をサポートしている。
- ・コロナ禍のなかでの様々な制約にもかかわらず、大学合格状況において優れた成果がでていることはとても素晴らしい。引き続き、生徒それぞれの進路希望実現をサポートしてほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、多くの生徒がマスクを外すようになり、生徒の豊かな表情が垣間見え、学校全体が明るく感じられるようになった。特に体育祭のダンス時に見られた表情は素晴らしかった。
- ・生徒がとても落ち着いて学校生活を送っている様子がうかがえる。引き続き、安心・安全を第一に、充実した教育活動を展開してほしい。
- ・先生方が、生徒一人一人を大切にしている教育活動が行われてきたことが生徒・保護者のアンケート結果からうかがえる。今後も継続した取組を期待している。
- ・附属中学校から玉名高校に進学する生徒とともに、市町村立中学校からの入学生がともに切磋琢磨できる学校づくりに一層努めてほしい。
- ・学校評価アンケートにおける「玉名高校に入学して（させて）よかった」という項目について、保護者の9割以上が肯定的な回答をしているのに対し、生徒は8割程度にとどまっており、その原因究明と解決に向けた取組が必要である。
- ・本校の最大の魅力は、全日制、定時制、附属中学校が並置されていること。それぞれの特徴がうまく関わり合い、生徒たちがさらに成長できる学校となるようしっかりサポートしていきたい。

5 総合評価

令和5年度の本校教育スローガンは『「健康・礼儀・努力」～何事にも一生懸命頑張る玉高生～』とした。

今年度の学校評価表における各項目(21項目)の評価はA:15項目、B:6項目、C:0項目、D:0項目という結果であった。また、12月に実施した生徒・保護者・職員の学校評価アンケート及び学校関係者評価においては概ね高い評価を得ることができた。今後も持続可能な開発目標に貢献し、日本や世界の様々な分野で活躍できるグローバル人材や地域社会の発展をけん引できるリーダーの育成を目指し、県北地域の進学拠点校として生徒や保護者、地域から信頼される学校づくりを推進したい。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、体育祭や文化祭、修学旅行をはじめとする学校行事を制約のない形態で実施することができた。学校評価アンケートでは「学校行事において生徒が主体的に参加し、活発な活動が行われている」の項目で肯定的な回答をしている生徒が96.2%、保護者が96.6%と高い値を示し、学校行事に対する極めて高い評価を得ることができた。同時にキャリア教育講演会や一日若駒大学等の進路講演会も通常開催に戻り、生徒・保護者の満足度を高めることができた。

さらに、学校行事等における育友会による支援や協力体制も4年前の状態に戻り、「育友会と連携した行事の実施」の項目では生徒・保護者とも過去3年間で群を抜いて高い値を示した。

また、「玉名高校に入学してよかった」の項目で肯定的な評価をしている生徒が82.5%、保護者が91.4%と若干の差は生じたものの、両者とも概ね高い評価を得ており、本校の教育活動に対して信頼を得ているものと考えられる。

6 次年度への課題・改善方策

学校評価アンケートにおける「進路希望に応じた学力の向上について」の項目では、17%の職員が目標を達成できなかったと回答しており、生徒の学習到達状況に応じた学習課題の設定や習熟度別授業の充実をはじめとする学力向上に向けた取組のための授業改善の推進が必要である。授業準備や個別指導の時間を確保すると同時に、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進に向けた具体策について検討を重ねたい。

また、「6年間を通じた中高一貫教育指導の充実について」の項目では22.6%の職員が否定的な回答をしており、多くの職員が中高一貫した指導の充実を課題として捉えている傾向にある。今後は各教科・分掌における中高それぞれの取組について共通理解を図ると同時に、中高が連携して6年間、あるいは3年間で生徒を育成する指導体制を構築する必要があると考える。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、学校もコロナ禍前の生活様式を取り戻したが、教育的効果を十分検討したうえで、教育活動の精選・統合や活動の形態を変える等の取組をとって業務改善と働き方改革の推進につなげたい。

さらには、本校での教育活動についての情報を荒尾玉名地域の小中学校や地域住民、自治体等に積極的に発信したり、地域への貢献を意識した教育活動を継続したりすることで、地域からの信頼を獲得し、生徒募集にもつなげたい。